

(様式3)

令和6年度 指定管理業務の評価表

1 施設概要

施設名	障害児放課後等支援施設 フレンズ	所在地	伊勢市御園町長屋2767
指定管理者名	認定NPO法人ときわ会 藍ちゃんの家	指定期間	令和5年4月1日から令和8年3月31日まで
設置目的	障がい児または障がい者の日中活動の場の提供		
業務内容	【伊勢市障害児放課後等支援施設フレンズの管理業務を行う】 ・伊勢市内に住所を有し、小中学校、高等学校または特別支援学校に在学する障がい児、または障がい者に対し、日中活動の場を提供するとともに、家族等の介護負担の軽減を図る。 ・日中活動の場を提供するなかで、他の障がい児、障がい者、支援員等と交流することで、障がい児の健全育成に資するよう努める。		
施設概要	ハートプラザみその1階 (療育室、静養室、便所 延床面積:112.5㎡)		
職員体制	管理者1名、支援員14名、運転手2名		
施設所管課名	高齢・障がい福祉課		

2 収支状況

		(A)	(B)	(C)	(単位:円)	
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	比較(C-B)	
事業収支	収入	指定管理料	6,223,400	6,244,000	6,244,000	0
		利用料金	8,792,800	8,503,010	8,424,174	△ 78,836
		その他	445,548	10,803	11,587	784
		計(a)	15,461,748	14,757,813	14,679,761	△ 78,052
	支出	人件費	9,999,462	12,758,380	12,499,378	△ 259,002
		管理運営費	1,839,124	2,083,553	1,668,719	△ 414,834
		その他	731,874	761,560	712,268	△ 49,292
		計(b)	12,570,460	15,603,493	14,880,365	△ 723,128
収支差引額(a)-(b)		2,891,288	△ 845,680	△ 200,604	645,076	

最新年度(C)と前年度(B)に収支の増減があったものについて記載	コロナ禍終息以降、令和4年度からの利用者数が、8.9人／日とほぼ横ばい状況となった。 法人経営の安定した運営に向けて、物価が高騰しているが、経常経費においても、効率化・合理化を進め、軽減できた。
----------------------------------	--

3 評価（様式4に基づく総合評価）

指定管理者	市
事業計画書に沿って適切な支援を提供するため、担当課と連絡を密に取り、運営した。 個々の成長に合わせた支援を心掛け、生活力の向上につなげた。季節ごとのイベントでは、レクリエーションを通して、他児との関わりが出来るだけ多くもてる機会とした。 保護者の方や、他機関と密にコミュニケーションをとることで、質の高い支援の提供に結びつけた。また、専門的な研修や救命講習などを実施し、スタッフのレベルアップを図った。 危機管理においては、ヒヤリハットを活用し、大きな事故はなかった。緊急時に備えて、マニュアルを整え、避難訓練等実施し有事に備えた。定期的な安全点検を実施し、また室内の改修工事を担当課に依頼し、より安全安心に過ごせる環境を整えることができた。	施設の設置目的を理解したうえで適切な管理運営が行われていた。 利用者のニーズに応え、個々にあわせた支援を行っていた。また保護者や関係機関と連携したり、職員が多様な研修を受けるなどし、支援の質の向上に努めていることを評価する。 また、危機管理に関し、マニュアルの整備や避難訓練、室内の改修など、ソフト、ハード両面での工夫も評価できる。

(様式4)

指定管理業務の項目別評価表

			施設名		障害児放課後等支援施設フレンズ	
評価項目			評価			
			指定管理者		市	
業務運営項目		評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由
施設設置目的の達成	①施設の目的や基本方針の理解	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針を理解していたか。	A	施設の目的や基本方針を十分理解し管理を行った。	A	施設の目的や基本方針を理解し管理運営に努めた。
	②施設設置目的の達成度	施設の管理運営を通して、施設の設置目的は達成されたか。	A	障がい児または障がい者へ日中活動の場を提供し、その家族の介護負担の軽減に資することができた。	A	施設の利用状況、管理状況から、施設の設置目的は達成されている。
	③利用者数	利用者数は当初の目標を達成したか。	A	登録人数と利用者数に大きな増減なく、目標を達成できた。	A	登録人数と利用者数に大きな増減なく、目標を達成できている。
	④運営状況	施設の供用日数・供用時間は守られたか。また、適正な施設の運営が行われたか。	A	事業計画書どおりの供用日数・時間を守り、適切な施設運営を行った。	A	事業計画書に計画された運営が行われ、適切な施設運営が実施された。
	⑤職員の配置状況・勤務実績	職員の配置状況・勤務実績は適正であったか。また、業務執行体制(作業責任者・業務担当者)は明確になっていたか。	A	業務執行体制を整え、適正な職員の配置と勤務を遂行した。	A	職員の配置状況、勤務実績は適正であった。
	⑥意思疎通	管理運営業務全般について、市と指定管理者の責任者の間で十分な連絡調整がなされていたか。	A	漏れなく業務報告し、また、市の担当者に適宜相談、打ち合わせを行い、連絡調整を密に行った。	A	管理運営業務全般で、伊勢市と協議しながら業務が遂行されていた。
	⑦各種管理記録等の整備・保管	各種業務計画書、点検記録、整備・修繕・事故・故障等の履歴等の各種管理記録等が整備・保管されていたか。	A	計画書や点検、管理記録の書類を作成し、適切に整備、保管を行った。	A	各種の記録については、適正に保管されており、月報、年報で報告されている。
	⑧地域の振興	地域や地域住民との交流・連携に関する取り組みを実施し、地域の振興が図れていたか。	B	地域の振興までには至らなかったが、保護者参加型行事を催した。	B	地域振興までには至っていないが、保護者参加型行事で交流が図られていた。
	⑨使用許可等	使用許可等申請が適正に行なわれていたか。		-		-
	⑩利用料金等の徴収状況	徴収、減免、還付等は帳簿等が作成され、適正に行なわれていたか。	A	各種帳簿は適正に作成を行い、処理した。	A	帳簿類は、適正に作成処理されていた。
	⑪個人情報	個人情報の取扱いがきちんとなされていたか。	A	個人情報に関する書類は施錠できる保管庫で管理するなど、個人情報の取扱いについては十分注意し、適切に行った。	A	個人情報に関する書類は、適切な管理が工夫されていた。
	⑫法令遵守	関係法令を遵守していたか。	A	各種法令を理解し、遵守した。	A	法令違反は見受けられなかった。

(様式4)

指定管理業務の項目別評価表

			施設名		障害児放課後等支援施設フレンズ	
評価項目			評価			
			指定管理者		市	
業務運営項目		評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由
サービスの質の向上	①施設利用状況及び利用者数増加への取り組み	利用者数の増加や利便性を高めるための具体的な取り組みが行なわれていたか。	A	ホームページで事業所を紹介するとともに、相談事業所へパンフレットを配布することで新規利用者の獲得、利用者や家族の要望に可能な限り応えることで、利用の増加につなげた。	A	事業所の周知や新規利用者の獲得への取組がされていた。
	②利用者の平等な利用	個々のサービスについて、対応職員によって格差が生じないよう、施設のサービスの水準を確保するための取り組みを行なったか。	A	ミーティングや情報共有ノートの活用により、全職員が支援における留意点を的確に把握し、共通の認識をもって支援にあたった。また、研修を実施し、職員のレベルアップを図った。	A	期待されるサービス水準に達していた。研修などそのための取組も行われていた。
	③適切な情報提供	全ての利用者が情報を得ることができるよう適切な利用情報の提供を行なったか。	A	適宜、各利用者に文書にて情報の提供、必要に応じ、口頭で説明し、適切な情報提供を行った。	A	適正な利用情報の提供がされていた。
	④非常時・緊急時の対応	緊急時のマニュアルが整備され、従業員訓練の実施や事故発生時・緊急時の対応は適切か。	A	緊急時のマニュアルを整備し、利用者も含めた避難訓練を行った。また、保護者向けに災害伝言ダイヤルの体験も実施した。	A	緊急時マニュアルの整備、利用者も含めた避難訓練の実施など適切に備えがなされていた。
	⑤苦情解決体制及び対応	利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたか。また、事故、苦情に対する対応は適切であったか。	A	利用者や保護者の意見・苦情が出た時や事故発生時、責任者に迅速に報告する体制を整えており、適切に対応した。	A	利用者からの意見、苦情等を受け、迅速かつ適切に対応できる体制を整えていた。また事故発生時は適切な対応ができていた。
	⑥自主事業	利用者ニーズに即した自主事業が行なわれていたか。	A	利用者の様子を適切に把握し、個々に合わせた支援を行うことで、利用者のニーズに応えた。	A	利用者のニーズに応じた支援、サービスが提供されていた。
	⑦事業の評価	事業実施後に確認・見直しが行なわれ、次年度へつなげる取り組みがなされていたか。	A	月次、年次業務報告書を適切に作成、それらを元に次年度への課題を掲げ、次年度の事業へつなげた。	A	次年度に向けての見直し等を行い、次年度につなげるよう努めていた。
施設・設備等の維持管理	①建物・設備の保守点検	建物・設備・植栽等が適切に管理され、安全性の確保、良好な機能及び美観の保持がされていたか。	A	定期的に施設の安全点検を行い記録し、事故に繋がらないよう、危険箇所の排除に努めた。また、よりよい支援を提供できるように、室内の改修を行い、安心安全な環境づくりに努めた。	A	安全点検が適切に行われ、適宜報告されていた。また、室内の改修などにより安心安全な環境づくりに努めていた。
	②備品等の管理	備品の管理・点検・保守は適切に行なわれていたか。	A	備品について丁寧に扱い、経年劣化による破損以外は、破損や紛失等はなかった。	A	故意過失による破損、紛失がなく備品管理は適切であった。
	③修繕業務	点検のよって異常が認められた場合は、速やかに修繕・交換・整備・調整等の適切な処置を講じ、その内容を記録されていたか。	A	異常があった場合は、市やハートプラザみそのに報告し、速やかに適切な処置を行い、記録した。	A	伊勢市や、ハートプラザみそのへの報告など適切な対応が行われ記録されていた。
	④清掃業務	清掃は適切に行なわれていたか。	A	日々の清掃、週末の清掃、大掃除など事前に立てた予定どおり清掃を行った。	A	清掃は適切に行われていた。
	⑤防犯体制	鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切だったか。	A	不審者対策として、開所中も施錠し、来訪者についてはインターホンで確認を必ず行い、退勤時には戸締りを確実に行った。	A	開所中の確実な施錠や、来訪者のインターホンでの確認など、防犯対策は確実であった。